

栽培漁業
部門

水産庁長官賞

〈新潟県〉小林一郎

(下越地区栽培漁業推進協議会員)

新潟県村上市田端町6番地25

同組合理事就任
受賞歴等 なし

3. 活動の対象となる漁業種類
対象となる漁業種類
板曳網漁業及び刺網漁業

活動の対象となる生物の種類
ヒラメ

海域
新潟県下越沿岸

(1) 4. 栽培漁業への取り組み
中間育成

陸上施設におけるヒラメの中間育成は、施設の管理や種苗の育成管理などで高い技術や経験が必要である。当初、漁業者である協議会員による中間育成は輪番制で行っていたが、種苗の育成には不慣れなため、例えばは疾病への対処や、飼育水槽への入水が止まった際の対処方法、種苗の健康状態の把握など、様々な問題が生じていた。こうした問題を解決するために、小林氏が代表して中間育成に取り組み、技術や経験を培うことで、問題に対して的確で迅速に対処できるようになった。

下越地区の陸上中間育成施設では、全長約四〇ミリの種苗を約七

1 功績理由

本県の栽培漁業は「第五次新潟県栽培漁業基本計画」に基づいて実施されている。中でもヒラメは、新潟県に適した放流種苗として重要な位置を占めており、効果的な放流による資源の増大が切望されている。

漁業者である小林氏は、下越地区栽培漁業推進協議会の会員として、技術が必要とされる陸上施設でのヒラメ育成に平成三年から取り組み、現在までの十七年間で、中間育成施設の管理や種苗の育成、日々の給餌に至るまで、中間育成全般を通して常に中心的な役割を果たしてきた。

小林氏の長年にわたる努力によって、現在では安定して放流できる技術が確立されており、栽培漁業の推進に顕著な功績を残したこ

とが認められる。

さらに、種苗放流の効果を把握するため、寝屋漁港における放流ヒラメの混獲率調査も担当しており、社団法人新潟県水産振興協会や水産海洋研究所と連携して放流効果調査に取り組んでいる。このように、漁業者によるヒラメ中間育成事業の礎を築き、現在でもその中心として尽力している小林氏



ヒラメ稚魚の搬入風景 (+小林氏)

2. 経歴

新潟県漁業協同組合山北支所に所属し、現在新潟県漁業協同組合の理事で、平成二年より下越地区栽培漁業推進協議会の副会長として栽培漁業及び資源管理型漁業の推進に尽力している。

昭和十年十一月二十七日生。

昭和二十六年 漁業に従事

昭和五十七年 山北町漁業協同

組合理事就任

平成二年 下越地区栽培漁業推

進協議会発足、副会長に就任

平成八年 新潟県指導漁業士に

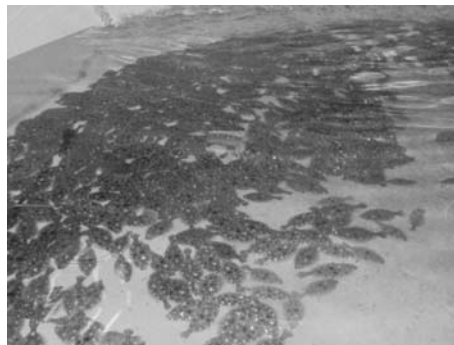
認定される

平成二十年 中下越一〇漁協が

合併、新設された新潟県漁業協



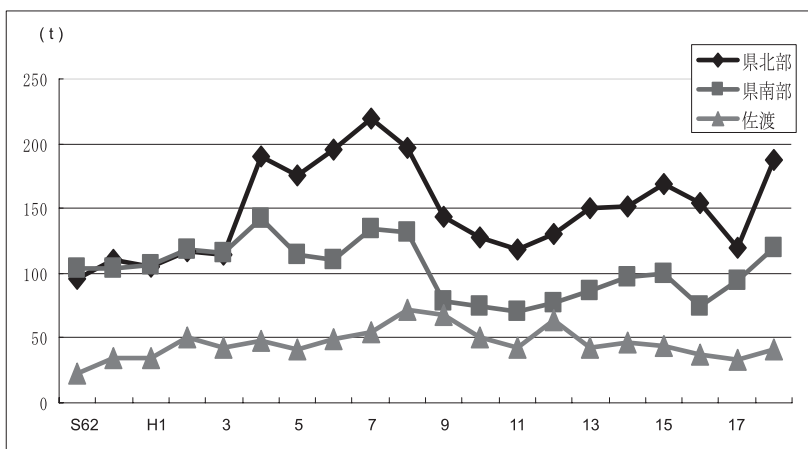
〇ミリになるまで中間育成をしており、この全ての過程において小林氏が管理している。現在では毎年約一〇万尾の大型種苗を安定して放流できるまでになり、下越地区栽培推進協議会放流分の種苗のほか、新潟県水産振興協会から依頼されたヒラメ中間育成も合わせて行っている。それらのヒラメ種苗は下越地域の各地区で毎年放流されている。



ヒラメ中間育成の写真

- (2) 保護管理
個人では該当なし。
- (3) 効果の検証
種苗放流の効果調べるために、下越地区では岩船港、寝屋漁港に水揚げされたヒラメについて体色異常魚の混獲率を調査してい

る。小林氏は市場調査員として、寝屋漁港の混獲率調査を行っている。近年、種苗生産技術が向上したことで天然魚と人工放流魚の区別がつきにくくなり、市場での混獲率調査が難航するといった問題も出ているが、水産振興協会や水産海洋研究所のアドバイザーを受けながら地道にこの調査に取り組み、放流効果の把握に努めている。



地区別ヒラメ漁獲量の推移

5. 漁業経営にもたらした効果
下越地区はヒラメの漁獲量が多く、ヒラメへの依存度も高いことから、ヒラメの資源を増大させることは重要な課題であった。そして下越地区の中間育成技術は、小林氏が十七年間に培った技術と経験により大きく向上し、ヒラメ資源の増大に寄与している。また、当初は会員が輪番制で行っていた中間育成を小林氏が代表して行うことで、漁業者の負担が軽減されている。

6. 波及効果
「漁業者」が中間育成を率先して行うということが、獲るだけであったそれまでの漁業を漁業者自身が考え直すきっかけとなり、栽培漁業と中間

中間育成を開始した翌年である平成四年から、新潟県北部のヒラメ漁獲量は他地域と比較して多い傾向にあり、小林氏による中間育成の取り組みも大きく影響していると考えられる。

育成への理解が進んだと考えられる。

さらに、漁業者自らが育成した種苗を放流することで、放流種苗を保護しようという意識が高まり、小型魚は獲らないという考え方が浸透している。

また、小林氏の地道な取り組みによって中間育成技術が向上し、優良な大型種苗を安定的に放流できるようになったこともあり、栽培漁業に対する漁業者の関心が高くなった。このため、下越地区栽培推進協議会は現在、県内で最も活発的に中間育成に取り組む協議会となっている。